

---

# **とある転生者の想像実行（イマジネーションエクゼキューション）**

ぽっポー

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある転生者の想像実行(イマジネーションエクゼキューション)

### 【Zコード】

Z99480

### 【作者名】 ぱつぽー

### 【あらすじ】

俺は神に無理やり転生させられた、これからどうなろうが不安はない、絶対どうにかする、しかも御坂とフラグが立て放題だ、

## 第零話～始まりの前～

「うむ、どうだ？」

オレは誰なんだ？

オレ？

オレって何だ？

「考えるのをお止め、楽になつなさい。」

「誰だあんた？」

「でもそうだな」

「考えるのも疲れた

「もう寝よう

「樂にならう

『「ダメだ』

「なんだよ、俺は寝むいんだよ

『「起きろ』

「止めてくれ、寝させてくれ、オレは疲れた

「オレってなんだ？」

「それより疲れたって何にだ？」

「分からぬ、分からぬわからぬワカラナイワカラナイワカラナイ

『「ならこいつに來い』

嫌だいやだイヤダイヤダイヤダイヤダイヤダイヤダイヤダイヤダイ

ヤダ

『「Jたちに来て行つてんだろー。』

その瞬間、右のーの腕を？まれて引きずり出された  
引きずり出された？何から？

それよりこいつは誰だ？ここは何処だ？

そんなことは後だ、現状を確認しよう、さつきまで俺が居た所は銀  
色の見るからにとろんとしていそうな液体が溜まつた沼みたいにな  
つている、そして今居るこの場所は空が真っ青で雲が無いのに太陽  
が見えない、そして目の前にはさつき沼からオレを引きずり出した  
張本人と思われる人物が居る、外見の特徴は白髪頭で眼が赤く肌も  
凄く白い、アルビノつてやつだな

『誰が白髪頭だボケ』

だつて白髪だもん

『いい加減にしゃがれアホ、もう一回やっこ漫かるか？オイ』

「「あん、てかあんた誰だよ、何で考えてる事がわかるんだよ」

『わらーあれだ、俺が神だからだ』

whyy?

『whyy.じゃねーよ、説明をしてやるok or Of cou  
rse?』

「どっち選んだつて受けんじゃねーか

『「つむせーよ、じゃあ始めるぞ、お前は死んだ、で俺が助けた、だから転生しろ、OK or Of course. ?』

「お前好きだなそれ、て言つか俺はびつして死んだんだ？」

『「Nかうつべのへりと思つたよ、ちよつといじかに來い』

『「つまつまながら手招きしつる、行つてやるか

『「行つてやるかじやねーよ、逝くか？逝くのか」「ハ』

「不吉な響きを出すなよ、？何でバケツなんか持つてんだ？」

『「気にはすんな

ポンッ

そんな軽い音と共に神が俺の頭に手を置いた  
その瞬間、俺の中に激痛と共に一気に記憶が流れ込んできた  
俺は中学2年であり成績が上の下くらいであつた事、部活の帰りが  
遅くなり一緒に帰っていた友達が信号で飛び出して車に轢かれそう  
だつたのを助けて死んだ事

「あ、ヤベ、超恥ずかしい、何で最後にあんな事言つたんだ？、ひひだら、超恥ずかしいわ」

『「こいつ、こやけてやがる、知つてんだなこの野郎

『「そういうなよ、で何処がいい？」

「そりやとある魔術の禁書目録だろ、てかなんで俺が転生すること

になつたんだ?』

『決まつてんだろ、氣に入つたからだよ、特に辞世の句が』

『ヤニヤしやがつて、鬱になりそつだ

『願いをかなえてやるよ、こいつでも』

よつしゃーー元氣満タン、傍から見たら多分オーラが出でる、活字  
なのが惜しいゼンの野郎ー

「一つ目はナルトの万華鏡写輪眼、しかも全部の能力が付いてて絶  
対に失明しなくて能力を見るとコピーできるやつ、後オリジナルで  
幾つでも能力を追加できる、二つ目は身体能力が普通の人の500  
倍くらいほしいな、筋力とか回復力とか、三つ目は思つている事が  
現実になる能力」▽5で、四つ目は血の契約の能力、俺が同意して  
れば相手がどう思つても力を『えられる』

『ずいぶんとめちゃくちゃな、まあいか容姿はどうする?』

「お前と同じでいいや」

『お前は神に対する畏敬の念はないのかよ、まあいいそのほかの事  
はどうする?』

『じゃあ場所は御坂美琴の家の隣、年齢は美琴より一ひとつ上、時期は  
離乳食が始まつた頃、後アフターサービスも頼むぞ』

『わかつた、じゃあな』

「ああ、またな

## 第一話 幼少期（前書き）

第一話です  
相変わらず駄文です  
感想やアドバイスくれたら元気が出る場合があります、てゆーかく  
ださい（泣）お願いします、  
読点の打つところがよく分からない（泣）

## 第一話 幼少期

「んちわ、白崎亮一っす、もうじいじに来て6年が経つたんだ、これまでに起こった事を簡単に説明するぜ、パチパチ……なんだろう胸の奥が凄く痛いんだ、母さん助けて、母さんと言えば両親を照会してなかつたけ、母さんは普通（？）の主婦、ただ超美人で24歳、何で知ってるかと訊うと母さんが寝てる間に母さんの卒業アルバムを見たから、父さんは母さんや近所の人達によるとイケメンで背が高いらしい、何で知らないかって聞くなよ、帰つてこないんだから、いやべつに別居とかじゃなくてアメリカの研究所で働いてるらしい、何を研究してるか知らないし興味も無い、只困る事が一つ、それは・・・・・給料の振込みがドルなんだよーだから月に一回両替に行かなきゃ行けない、手数料取られるのに普通よりもちょっと贅沢が出来る生活ができるってドンだけ給料もらえるんだよあんたは！」



取り乱してすいません、それよりこの6年間何があつたか年表に表してみました

6ヶ月：転生

8ヶ月：母さんの年齢を知る

1歳2ヶ月：一人で歩けるようになる

1歳3ヶ月：写輪眼を開眼、近所のネコの心を読む事に成功（なんか懐いて来たので契約後ペットとして家で飼う）

2歳：御坂美琴が誕生

3歳6ヶ月：万華鏡写輪眼を開眼、この時点では会得している術、月読・風蠍螂・神威

4歳2ヶ月：加具土命・イザナギ・神守之盾を会得、また一度に大量の能力を使うと暫らくの間能力の行使はおろか眼を開けることすら出来なくなることが発覚

4歳3ヶ月：体術の訓練を開始

5歳：美琴が幼稚園に入園

6歳：大事件発生！

美琴がすんげー懐いてきてる、「一緒に風呂に入ろう」なんて涙ぐ

んだ眼の上田ずかいで見られた時は俺じやなつから死んでたぞホントに、だつて鼻血が頸動脈切つた（切つた事無いけど）みたいに吹き出て骨髄に全力で集中しないと出血多量で死んでたぞ、で大事件つてのが俺に責任がある事なんだ、回想シーンにて説明します

一田田

「ねえりょーにい、あそぼ？」

「いめん、今日は無理なんだ、また明日遊ぼうね」

一田田

「ねえりょーにい、きのうあしたあそぼうつていつたよね？」

「いめん、今日も無理なんだよ、明日あそぼうね」

遠足の前田

「ねえりょーにい、きのうもそのまえもあそぼうつていつたよねえ？あしたえんそくだからおかしかいにい」「あら」

「いめん、ホントに無理なんだつて遠足から帰つてきたら遊んでやるから、な？」

「もういいもん！べーだ」

「あちよ、待てって美琴ー」

とまあこんな風になつてしまつたのである、なぜいづなつたかと言ふと俺が万華鏡の修行に熱中しすぎてて美琴の相手ほっぽらかしてたのだある、これが原因であんな事になるなんてだれも思いもしなかつたと思つ

遠足当日、俺が家に帰つてみると母さんが深刻な顔をして待つていた

「母さんは更に深刻な顔をしていった

「落ち着いて聞いてね亮一、美琴ちゃんが見つからぬよ」

さすがの俺もビックリして眼を見開いた

「どうした事だよお袋」

母さんは説明を始めた

「あのね、山の頂上でお腹を食べてるといきなりなくなつたらしいの、何やつてるの亮一？」

俺は下着になつてプロテクターを付けて強化纖維の長袖長ズボンを着て、真っ黒の上着を着て黒くて細長い布を顔と頭に巻きレンズが真っ黒いゴーグルをはめ、黒い革の手袋をはめながら答える

「何つて準備だよ、それより山までの地図を見せてくれ」

黒いサバイバルブーツを超きつゝ履きながら母さんの答えを聞く

「これよ」

そういうながら地図を出してくる、ちなみにこの人、万華鏡の事を知つてたりする、俺は地図を一瞥して言つ

「こつてくる」

それだけ言つと神威を使って山まで飛ぶ

もう薄暗くなつた山では保育員だけでなく警察も少しくる、これは早くしないとやばいなと思い、万華鏡を使って動いているものを探しているとすぐに見つかった、そして神威でそこまで飛ぶとホントに危ないとこりだつた、ペタリと座り込んでいる美琴に向かつて熊が爪の付いたその腕を振り上げていた

「なにやってんだ、毛玉」

殺氣と威圧をかなり盛り込んで言い放つと熊は動きを止めて震え始めた

「美琴もこなとこで何やってんだ？」

美琴はこれで俺だつて分かつたみたいだ

「りょーにいい、りょーにいい！わあああんりょーにいい！」

泣きじやくらながら二つちに来て腰に抱き付いてきた、それを無言で頭をなでて後ろに押しやる

「少し下がつてわ」

それだけ言つと美琴は5歩くらい後ろに下がつた、熊は少し二つちを振り向いて俺とは反対方向に走り出した、もちろん俺が逃がすはずが無い、神威で前に回つて風蠍螂で左肩を少し深く切りつける

「グオオオオオオオオオ！」

と言いながら立ち上がり、そして右腕を丸ごと斬る、返り血で服が汚れるが関係ない

「終わりだ」

「」の一言と共に神威で頭を飛ばす、今度は返り血を頭から被つてしまつ

「ああ帰るだ、美琴」

読んだが返事が無いので言つてみると地面に横になつて寝ていた、しうつがないのでおんぶして山を降りることにした

「君何をやつてるんだ！それは・・・血じゃないかー・ビーッしたんだ！」

出ました警官A、は無視して保育員さんを探す、いた美琴のクラスの受け持ち、俺だつて気付かれないうつに声を少し低くして呼ぶ

「なあ、ヤノの保育員」

それに反応してこっちを向いた、最初は熊の返り血にビックリしていたが美琴に気付いて更に驚いたようだ

「ヤ、その子をビンで？」

「山の中、じゃな

それだけ言つて神威で家に飛んだ、上着を脱ぎ捨ててベッドに横に

なった時点で俺は意識を手放した

## 第一話 幼少期（後書き）

風蠍螂とは最強の斬撃、視界にあるものならどんな物での切裂ける、また空間に直接働きかけるため一方通行にも防げない、が衝撃波を前に真直ぐ飛ばすため、神守之盾に当たるか術氏の視界から消えるか術氏が消さないと消えない

神守之盾は最強の防御、好きな場所に好きな規模で好きな時間透明な盾を形成できる、そしてそれ相応の疲労を伴う、風蠍螂を防げる唯一の盾

また亮一は一歳の時からずっと枷をつけており常に全力の2割が全  
力の状態

## 重要なお知らせ

誠に勝手ながら本小説を終了させて頂きます  
理由を説明させていただきますと

一つ目が主人公を強くしすぎました

二つ目ですがアイデアは浮かんできますがそのアイデアはこの主人公では実現不可能であります

理由はほかにもいくつもありますがここでは説明を省かせていただきます

新しい小説の名前は既に決まっております  
設定などの殆んどの物を引き継がせていただきます  
どうか悪しからずご了承ください

### 簡易キャラ設定

白崎良哉

白髪紅眼

演算能力が<sup>クリエイションゴット</sup>ズバ抜けて高い、樹木の<sup>ソリーダイアグラム</sup>設計者の5倍ぐらい、別名万物<sup>オールシングスダイアグラム</sup>の設計者命名上条

能力：<sup>クリエイションゴット</sup>創造神パーソナルエリア（自分だけの領域）（半径20m）  
を常に展開しその中の物なら分子単位で理解でき、パーソナルエリアの半径の半分の領域で再構築、自分に直接触っている、または特殊な物を通じて関節的に触れている場所で分解・分子の創造ができる

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9948o/>

---

とある転生者の想像実行（イマジネーションエクゼキューション）  
2010年11月25日04時42分発行